

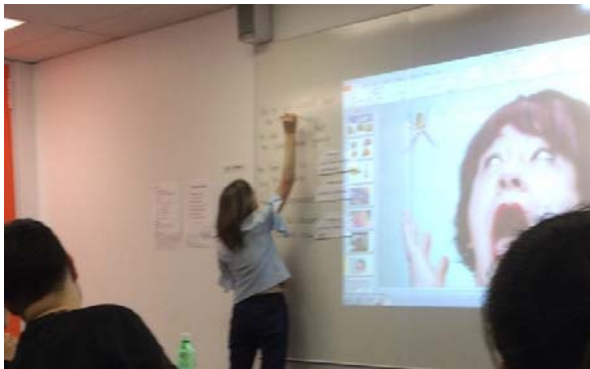
① はじめに

私は2017年2月13日から3月10までの1ヶ月間本学と協定を結んでいるシドニー工科大学の附属語学学校インサーチへ行ってきました。シドニーはオーストラリアの南東に位置し、オーストラリアで1番に栄えている州です。どこの駅で降りてもそこは住宅街と大きなビルがありました。また、南半球なので日本とは真逆の街です。ちょうど2月は真夏で、私が行ったときは、今年度の最高気温が出たところでした。毎日短パンTシャツで過ごせ、授業前にビーチに行くような海外の生活をまるごと味わえるプログラムでもありました。

プログラムで受講した授業に対する印象、

北海道教育大学5分校から8人が集まりこのプログラムへの参加が決まりました。この8人と行動できたのも最初だけで、学校で歓迎パーティーが行われた3日後にはテストがあり、12レベルにクラスが分けられました。この語学学校は最初に受けたテストのレベルでクラスがまきます。1カ月単位でテストがあり、そのテストを合格するとレベルが上がっていきます。一番上のクラスに行き、テストで合格すると卒業という形になり、そのままシドニー工科大学に入学することができるという仕組みです。上記の理由で、ほとんどの学生はシドニー工科大学に入りたくてこの語学学校に通うという形でした。私のクラスは16人いて中国人13人、アラビア人1人、日本人2人でした。語学学校では毎日4時間英語だけで授業が進んでいきます。私のクラスは中学校英語レベルでした。ですが、それを英語の教科書、英語の説明で進めていくのでまた新たな刺激となりました。一番印象に残ったのは、英語の単語でわかんなかったものは、先生がわかりやすい英語で訳すという点です。今までわからない単語は日本語で訳すものだと思っていたので自分にとっては衝撃でした。これからの教師生活での自分の教え方の視野も広まりました。また、カードゲームやすごろく、コンピューターやアプリを使った作業も多くバラエティー豊かな方法で英語を学ぶことができました。

授業の様子



教育大学と中国人の友達との学校の様子



インサーチでの研修

また、インサーチのプログラムの中に3つの研修がありました。その中の1つ日本語クラスのあるシドニーでもレベルの高い高校に行かせてもらいました。そこでの日本語の授業に参加させていただきました。そこでは、英語を母語とした人が日本語を学ぶので、自分たちが日本で英語を学ぶのと同じような感覚です。そこで放送されていた日本語のぎこちない文章のCD（習う範囲での日本語しか使えないためややぎこちなくなってしまう。また、わかりやすいように遅いスピードで話している）や、先生の話すスピードの遅さにびっくりしました。自分たちが英語を学んでいる様子を英語を母語としている人がみたらこんな感じなのかと新たな発見がありました。また、シドニー工科大学での研修では最先端の技術を使った3D映像を見せてもらったり、建物を見せてもらったりしました。最後に世界でビジネスに成功した人の講話を聞いて、海外を視野に入れたインターンの勧めを受け、自分の考えたこともないアドバイスを頂けたりしました。

ホストマザーが作ってくれたご飯



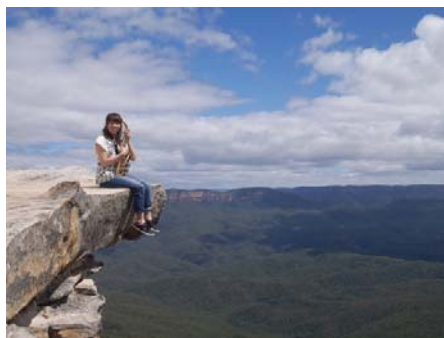
生活体験、ホームステイについて

私のホストファミリーは、ニュージーランド出身のお母さんと、南アフリカ共和国出身のお父さんでした。また、娘は12歳、息子は15歳でした。家族のみんなはとても日本が大好きで特に息子は日本のアニメが大好きでした。また、毎日おいしいご飯をだべることができました。とってもおしゃれでおいしかったです。また、土曜日は息子の試合を見に行き、日曜日はビーチに行くなどしました。また、教会にも一緒に行きました。お菓子作りなども一緒にし、ホストファミリーとはかけがえのない日々を過ごしました。ホストファミリーはとてもアクティブで5時には必ず帰宅し、そこからヨガクラブや教会でのお祈りをしていたため、帰ってくる9時ごろにご飯を食べることが多かったです。自分の日本の家族は、学校や部活、職場から帰ってきた後に何かアクティビティをすることがなかったのでとても新鮮な体験でした。

ホストファミリーで行ったボンダイビーチ



スカイダイビング



友達で行ったブルーマウンテン



オーストラリアの友達とシドニー大学



昔島全体が刑務所だったコッカトゥー島で囚人役のおじさんと

学校外での活動について

また、ちょうど日本でいう小学六年生の娘の授業は広島の新爆についての単元でした。その話を聞き、娘の担任の先生に手紙を書き新爆の話や千羽鶴の日本人の思いの文章と一緒に、授業見学をさせていただけないかお願いしました。そうすると、娘を通じ同意を得ることができ、さらに千羽鶴の折り方の授業をしてほしいと頼まれ一時間ツルの折り方を教えることができ、とても貴重な体験になりました。



また、シドニー工科大学には様々なクラブ活動があります。たまたま語学学校のボランティアに剣道サークルの人がいたので声をかけクラブ活動に参加させていただきました。そこでは号令なども日本語でやり、日本の文化で剣道をしていました。アドバイスや説明などは英語で、スポーツを英語で学ぶというのはとても楽しく、やりがいのあるものでした。また、日本とは違い防具や、竹刀の輸入が大変ということもわかりました。ここでは金曜日に飲み会がありました。先生方も気軽についてきてくれて剣道について語りあかしたり、自分の将来について語ってくれたり、語学学校とは違う会話や人間関係をつくることができました。

おわりに

このプログラムでは本当に様々な発見がありました。私が一番後悔しているのは剣道サークルにもっと早くいくべきだったという点です。コミュニティーを増やすと、様々な人や様々な経験を増やすことができます。また、会話の内容や親切さも違ってきます。最初語学学校や、語学学校のボランティアの人がすごく仲良くしてくれて面倒も見てくださいました。しかし毎日企画や、話してくれる気遣いに頼っていて受け身状態でした。しかし、自分が好きな分野や、学びたいことを英語で見に行くということは今までと違う興味や学びになります。性別、趣味、誕生日など決まった自己紹介項目ではなく、興味を持った分野のことなので自分からも話しやすく、本当に英語が必要となってきます。そうすると、もっと話したいとか、もっと仲良くなりたいという向上心がどんどんふえました。これが、本当に英語を必要としている時なんだと自覚しました。とても貴重な経験になりました。ぜひこれから参加する皆さんもいろいろなコミュニティーに参加し積極的に行動してください。親切な人が多いので、たくさんの方が協力してくれます。

剣道クラブの仲間



ホストファミリー



剣道クラブの仲間と先生

